

国民大運動 News

2023.12.21

No.7

「軍事費を削って暮らしと福祉・教育の充実を」国民大運動山形県実行委員会
山形市薬師町2-6-15 山形県労連内

TEL 023-615-2172 FAX 023-615-2173

mail yamagataroren@yahoo.co.jp

戦争で得るものない 子どもを殺すな！ イスラエルはガザへの無差別攻撃やめろ！ 即時停戦求め、募金呼びかけ宣伝行動

10月7日、パレスチナのイスラム組織・ハマスによるイスラエルへの大規模な攻撃に端を発した戦闘が始まり、イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの報復攻撃がエスカレートし続けています。ハマス壊滅を掲げるイスラエル軍は、人口密集地のガザ地区に対し、病院、救急車、学校や国連施設など見境なく攻撃を加え、子どもや女性などおびただしい数の民間人が犠牲になっています。

こうした事態をうけ、国民大運動実行委員会は革新懇、県労連と共同し、イスラエルの国際法・国際人道法違反の軍事行動をやめさせ、日本政府にイスラエル支援のアメリカ追随の姿勢を改めてイスラエルに“停戦”を働きかけるよう求めながら、ガザへの人道支援に貢献するため、街頭行動を繰り広げています。この間、10月27日、11月14日、12月8日の3回にわたって取り組まれました。



10月27日 山形駅前



11月14日 山形駅前

街頭で、それぞれの団体の代表がマイクを握り、通行人に呼びかけました。革新懇の渡辺ゆり子代表世話人（共産党県副委員長）は、ガザでは病院も爆撃されたり、食料・水・エネルギー・薬品等の補給が絶たれる中、「女性や子どもの命を守れ」と強調。日本政府に対し、即時停戦を働きかける外交努力を求めました。

新日本婦人の会県本部の佐藤希事務局長は、ガザ地区では帝王切開やケガの手術を麻酔なしでせざるを得ない状態になっているという報道を紹介。「想像しただけでも震えるような恐ろしいことです。誰の子どももお母さんが命がけで生んだ大切な命です。世界と連帯して『戦争やめて』の声を上げましょう」と訴えました。

県労連の佐藤完治事務局長は、イスラエルへの全面支援を表明したバイデン米大統領とG7に歩調を合わせた日本政府を批判。歴史的・民族問題を無視した紛争の一方の側のみに加担すべきではないと強調しました。また、荻原圭子議長は、国際紛争を戦争で解決できるのかと問いかけ、「ガレキのようなガザ地区の惨状を見れば、平和と自由をめざして即時の停戦を実現するしかありません」と呼びかけました。

さらに、紛争から2ヶ月が過ぎ、太平洋戦争開戦の日の12月8日、山形駅・東西自由通路で募金の呼びかけに集中した行動を展開。この日は毎年恒例の「赤紙配り」を行っていた山形地区母親連絡会のメンバーも合流しました。国民大運動実行委員会の勝見忍事務局長は「アジア・太平洋戦争開戦から82年を迎え、政府の行為による戦争という過ちを二度と繰り返させてはなりません」と強調。ロシアのウクライナ侵略戦争を批判するとともに、イスラエルによるジェノサイドで目を覆うばかりの惨劇が続いているガザ地区に暮らすパレスチナ住民に対する募金を呼びかけました。

被害をうけている子どもたちがかわいそうと語る60代男性は、「戦争で得るものは何もない」と募金してくれました。募金した20代男性は「イスラエルによる無差別攻撃を一刻も早く止めてほしい」と語りました。「少しばかりですみませんが」と言いながら募金を寄せる人が目立ちました。

国民大運動実行委員会は、寄せられた募金は全額をユニセフに送金することにしています。またXへの投稿などSNSの活用も呼びかけ、停戦を求める世論を高揚させる取り組みを継続することにしています。



12月8日 山形駅東西自由通路

ガザでの戦闘を終わらせるため、あなたも声をあげましょう！

Xなどに投稿しましょう(できれば英語でお願いします)

<例文>

Stop Genocide in Gaza→ガザでの大量虐殺をやめろ

Don't kill any more children→これ以上、子どもを殺すな

Stop the war immediately→ただちに戦闘を停止せよ

Save the children in Gaza→ガザの子どもたちを救おう